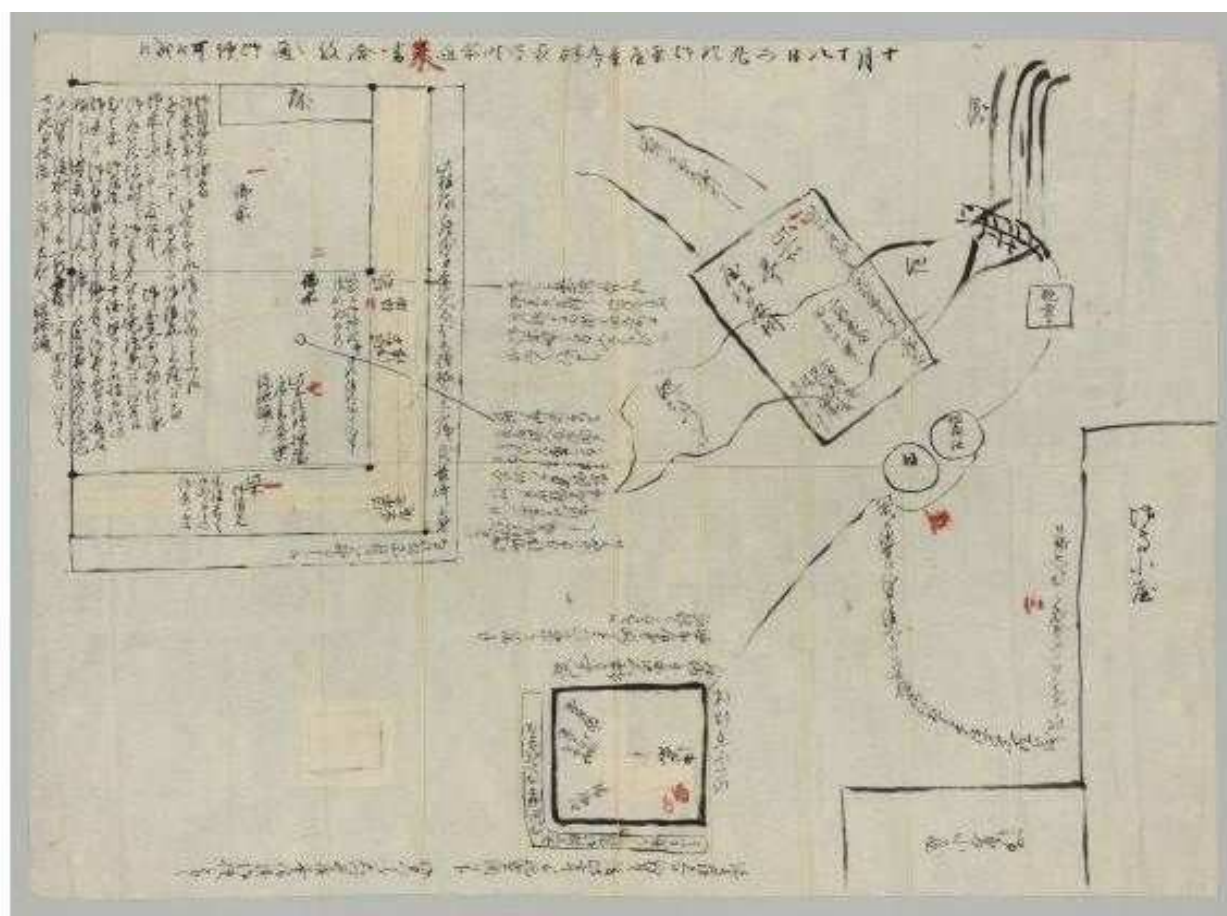


令和 8 年度

要 覧



「御目見之後後御料理等被下候図」(『公辺取合之始末書留一件』より) (本館所蔵)



鹿児島県

鹿児島県立図書館

鹿児島市城山町 7 - 1 TEL(099)224-9511

FAX(099)224-5824

－ 表 紙 －

「御目見之後御料理等被下候図」 『公辺取合之始末書留一件』より

(作 者) はやしいち べ え りん ぼ い けい 林市兵衛(林梅卿)

(大きさ) 40.0cm×53.0cm

鹿児島県立図書館の収蔵資料に『公辺取合之始末書留一件』と記された史料がある。和紙 27 枚からなる和装本で、墨書により記され、頁間には饗宴の様子などを描いた絵図など 5 枚も綴じ込まれている。これらには、安永 4(1775)年 10 月に長崎を出発した旅人が鹿児島を訪れ、「御前」と記された当時の薩摩藩主島津重豪からもてなしを受ける場面が描かれている。記録者名の記載はないが、旅人が長崎在住であること、本文中の「林梅卿」と一人称「拙者」の符合から、本資料は長崎奉行のもとで唐通事として中国交易に従事した林市兵衛の日記と考えられる。

鹿児島県立図書館所蔵

目 次

I	沿 革	1
II	基本的運営方針	2 ～ 3
III	組 織	4
IV	業務の概況	
1	開館時間・休館日	5
2	個人貸出	5
3	市町村等への貸出（貸出文庫）	5
4	相互貸借と選書参考	5
5	調査相談	5
6	資料の複写	6
7	図書館情報システム	6
8	横断検索システム	6
9	インターネット・データベースサービス	6
10	児童文化室	6
11	方言ライブラリー	6
12	特化コーナー	6
13	学習室（電卓使用ルーム含む）	6
14	研修講座等の開催	6 ～ 7
15	職員の派遣、来館研修の受入れ	7
16	展示の実施、広報活動及び史料集刊行	7
17	貴重資料等のデジタル化	7
18	関係機関等との連携	7
19	研修室の一般利用	7
V	行事計画	
1	図書館「総合」講座	8
2	学校図書館講座	8
3	読書活動推進人材スキルアップ研修会	8
4	親子読書研修会	8
5	海音寺潮五郎記念文化講演会	8
6	海音寺潮五郎記念文芸ゼミナール	8
7	県図書館大会	8
8	県立図書館ボランティア活動説明会等	9
9	集会活動	9
10	子ども読書の日関連行事	9
11	年間展示計画	9
VI	図書館資料	
1	図書資料	10
2	郷土資料	10
3	逐次刊行物	10
4	マイクロフィルム化・デジタル化資料	10
5	新聞	10
VII	統 計	
1	蔵書の構成	11
2	利用状況等の推移	12 ～ 13
3	九州各県立図書館の比較	14
VIII	予 算	15
IX	施 設	
1	概要	15
2	主な施設の概要	16
3	配置図及び平面図	17 ～ 19
4	その他（記念碑等）	20
	参考資料	
1	歴代館長	21
2	鹿児島県立図書館協議会	22 ～ 23
3	鹿児島県史料集刊行委員会委員	23
4	研修講座等の開講変遷（昭和 50 年度以降）	24
5	公共図書館の設置状況	25
6	横断検索システム参加市町	25

I 沿革

明治	35 年度	森有礼文部大臣の功績を記念するため鹿児島県私立教育会が鹿児島県私立教育会附属図書館を建設
	42 年度	鹿児島県私立教育会附属図書館を私立鹿児島図書館と改称
	45 年度	私立鹿児島図書館を県に移管、鹿児島県立図書館と改称
大正	3 年度	桜島爆発資料展示のため博物部を附設
昭和	2 年度	図書館落成(現県立博物館)
	8 年度	文部大臣から中央図書館として指定認可、巡回文庫を貸出文庫と改称
	13 年度	推薦図書目録・蔵書目録刊行
	20 年度	空襲激化により休館(6月)
		戦災により貸出中の図書1千余冊焼失、蔵書8万余冊を整備し図書館業務再開
	24 年度	自動車(ジープ)による配本開始
	26 年度	館報「南の窓」創刊、開架閲覧方式採用
	27 年度	鹿児島県図書館協会発足
		農業文庫を設置して配本開始
	30 年度	配本車を「すばる」と命名
	32 年度	相談事務の開始
	33 年度	奄美分館発足
	35 年度	県史料集刊行開始、レファレンスコーナー設置、「親子20分読書運動」を展開
	39 年度	「心に火をたく献本運動」開始
	42 年度	「鹿児島県郷土資料総合目録」及び「鹿児島県逐次刊行物総合目録」を編さん刊行
		「幼児に本を読んであげよう」運動開始
	44 年度	児童室文集「さざなみ」創刊
	46 年度	鹿児島方言の収録開始
	50 年度	公共・学校図書館講座を開設(教育センター事業から委譲)
	51 年度	児童室文集「さざなみ」(昭和44年創刊)を第7号より親子読書研究誌として続刊
		「かごしまの図書館」創刊(52.3)
	52 年度	「おはなしの時間」開設(52.12)
	53 年度	親子読書巡回セミナー開設海音寺潮五郎文庫設置
		「鹿児島県郷土資料総合目録 公立図書館所蔵編 昭和53年3月31日現在」「大久保利通関係資料目録」
		「海音寺潮五郎文庫目録」刊行
	54 年度	新館竣工(54.9.30)新館落成開館式(55.1.12)
	55 年度	館旗制定(56.2.1)
		総合目録作成事業開始、教養講座・児童文学講座・親と子の工作教室開設
	56 年度	成人大学講座開設
	61 年度	方言講座「ふるさとの言葉を聞くつどい」開設
	62 年度	方言ライブラリー開設(62.5.1)
平成	元年度	生涯学習県民大学教養講座開設
	2 年度	図書館業務電算化事業開始、「鹿児島県郷土資料総合目録 公立図書館所蔵編 第二集」刊行
	4 年度	生涯学習県民大学専修講座開設(10講座)、「追放図書」公開
	6 年度	電算システム本格稼働式(6.4.5)、方言採録テープ目録作成(7.3.31)
		生涯学習県民大学図書館教養講座開設(10講座)
	8 年度	県立視聴覚センターを県立図書館に統合
	9 年度	県立図書館ホームページ開始(10.2.20)
	11 年度	インターネットを利用した蔵書検索サービスの運用開始(11.10.20)
		図書館ボランティア養成講座開設、県庁ブックポスト設置(11.5.1)
	13 年度	絵本による子育て支援プロジェクト事業開始(3か年事業)
	14 年度	「子ども読書の日」関連事業の実施(展示コーナー・おはなしのじかん等)
	15 年度	視聴覚課が県民交流センターへ移転(15.4.1)
		「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」の推進を決議(県図書館協会)
		「鹿児島県子ども読書活動推進計画」策定(16.2月県教委)
	16 年度	広げよう深めよう「読み聞かせ」指導者研修会開始(3か年事業)
	17 年度	組織改編(4課→3課)総務課・奉仕課・資料課
		開館時間の延長(午後7時まで→午後9時まで)、入館者1千万人達成(17.6.26)
		耐震補強工事实施(17.11.1～18.3.15)
	18 年度	県立図書館協議会委員初の公募実施、年度間入館者数60万人突破(604、994人)
	19 年度	「海音寺潮五郎没後30年」記念事業実施
		「自ら本に手を伸ばす子ども」育成事業開始(3か年事業)
	21 年度	奄美図書館開館(21.4.23)
	22 年度	図書館情報システム更新(23.2.1)【横断検索開始】
		「読書と感動を広げる研修会(読書活動推進員養成講座)」開始(3か年事業)
	23 年度	(財)海音寺潮五郎記念館から海音寺潮五郎氏の書斎一式寄贈
		学習室空席状況のホームページ閲覧開始(24.3.27)
	24 年度	方言ライブラリー室のリニューアル(25.2.25)
	25 年度	(財)海音寺潮五郎記念館解散に伴う寄附、海音寺潮五郎記念事業開始(25.4)
		閲覧室及び学習室トイレリニューアル(25.12.19)
	26 年度	海音寺潮五郎記念文芸ゼミナールの開始、課題解決支援コーナーの拡充
	27 年度	アスベスト除去工事及び書庫増設工事实施(27.10.27～28.3.17)
	28 年度	図書館情報システム更新(28.12.1)
令和	元年度	新たな「鹿児島県立図書館基本的運営方針」の策定(2.3.29)
	3 年度	視覚障害者等サービスの開始
		図書館情報システム更新(3.12.1)
	6 年度	「第2期鹿児島県立図書館基本的運営方針」の策定(7.3.16)
	7 年度	電子書籍サービスの開始(7.12)
		入館者2千万人達成(8.2.21)

Ⅱ 基本的運営方針

【県立図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し、成長し続ける図書館 ～「知と知恵の拠点」を目指して～

【基本目標、重点施策及び事業等】

＜基本目標 1＞ 資料の充実とデジタル化の推進

- 1 市町村立図書館等との役割分担を明確にし、県立の図書館として果たすべき役割を意識した効率的な資料の収集・整備に努めます。
- 2 県民の生涯学習や地域課題の解決を支援するため、利用者のニーズや鹿児島県の地域性、社会や時代の変化等に対応した資料の整備と活用を図ります。
- 3 県内各地に保存されている貴重な郷土資料について、県内歴史研究会等との情報共有を図るなど、より積極的な収集・研究に努めるとともに、貴重資料を保存するための空間確保及び資料の防災対策に取り組めます。
- 4 貴重資料紹介展をはじめとする郷土資料の展示やデジタルアーカイブ化により、閲覧及び活用の促進を図ります。

＜重点取組事項＞

- 図書館資料の計画的な整備
- 郷土資料の網羅的な収集
- 郷土資料のデジタル化

＜基本目標 2＞ 市町村立図書館等との連携強化

- 1 両図書館がネットワークの中心となり、市町村立図書館をはじめとする県内図書館の蔵書の相互利用を活性化し、貸出文庫や相互貸借により他館の蔵書不足を補うなど、県内全域における図書館サービスの充実・拡大を推進します。
- 2 県内の市町村立図書館等に関する情報の積極的な収集に努め、ホームページを活用した情報の共有を図るとともに、各館の情報交流を推進します。
- 3 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画のもと、生涯を通じて読書に親しめるよう、親子読書会や読書グループ等の活動促進を啓発するとともに、市町村立図書館（室）及び学校等の関係職員を対象とした研修の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- 4 両図書館が所蔵する郷土に関する貴重資料等について、大学や他の機関と連携した資料調査やアーカイブに関する調査・研究に努めます。

＜重点取組事項＞

- 市町村立図書館（室）支援の充実
- ネットワークの構築
- 読書活動の推進

＜基本目標 3＞ 個別最適なサービス機会の充実

- 1 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、レファレンスツールの充実を図るとともに、レファレンス記録を蓄積し、アクセシブルな公開方法により、県民への課題解決に向けた情報提供に努めます。
- 2 両図書館が実施している団体貸出等のサービスについて周知を拡大し、制度の利用促進を図ります。
- 3 来館することが困難な利用者に対して、貸出・返却の郵送サービスを提供するほか、鹿児島県読書バリアフリー計画に基づき、録音図書の貸出や大活字本コーナーの充実、拡大読書器の提供、アクセシブルな電子書籍の導入等の取組を確実に実践し、誰もが読書を楽しむことができる環境の整備に努めます。

＜重点取組事項＞

- 課題解決支援・学習支援の充実
- 利用者に対応したサービスの充実
- 視覚障害者等の読書環境の整備の推進

＜基本目標４＞ 人と情報の交流拠点機能の充実

- 1 県立の図書館としての役割と機能を県民にわかりやすく示しつつ、親しみやすい図書館として誰もが気軽に利用できるような雰囲気づくりに努めます。
- 2 両図書館が提供するサービスやイベント等に関する情報を、ホームページ・新聞・テレビ・ラジオ・SNS等の多様な媒体を効果的に活用し、より積極的な発信に努めます。
- 3 企画展や文学講座、講演会、生涯学習講座等の開催を通して、郷土鹿児島県の歴史や文化に対する県民の理解促進を図ります。
- 4 文化庁から国史跡「鹿児島城跡」として指定を受けた敷地にある県立図書館として、黎明館と連携しながら、所蔵する鹿児島県を含む郷土資料の更なる発信に努めます。
- 5 世界自然遺産に登録された奄美大島に位置する奄美図書館では、奄美群島の豊かな自然や文化・歴史に関する学びが深まるよう、所蔵する郷土資料の更なる発信に努めます。

＜重点取組事項＞

- 読書を媒体とした交流拠点機能の充実
- 情報発信力の強化
- 郷土の人・文化の理解と継承

＜基本目標５＞ 職員の資質向上

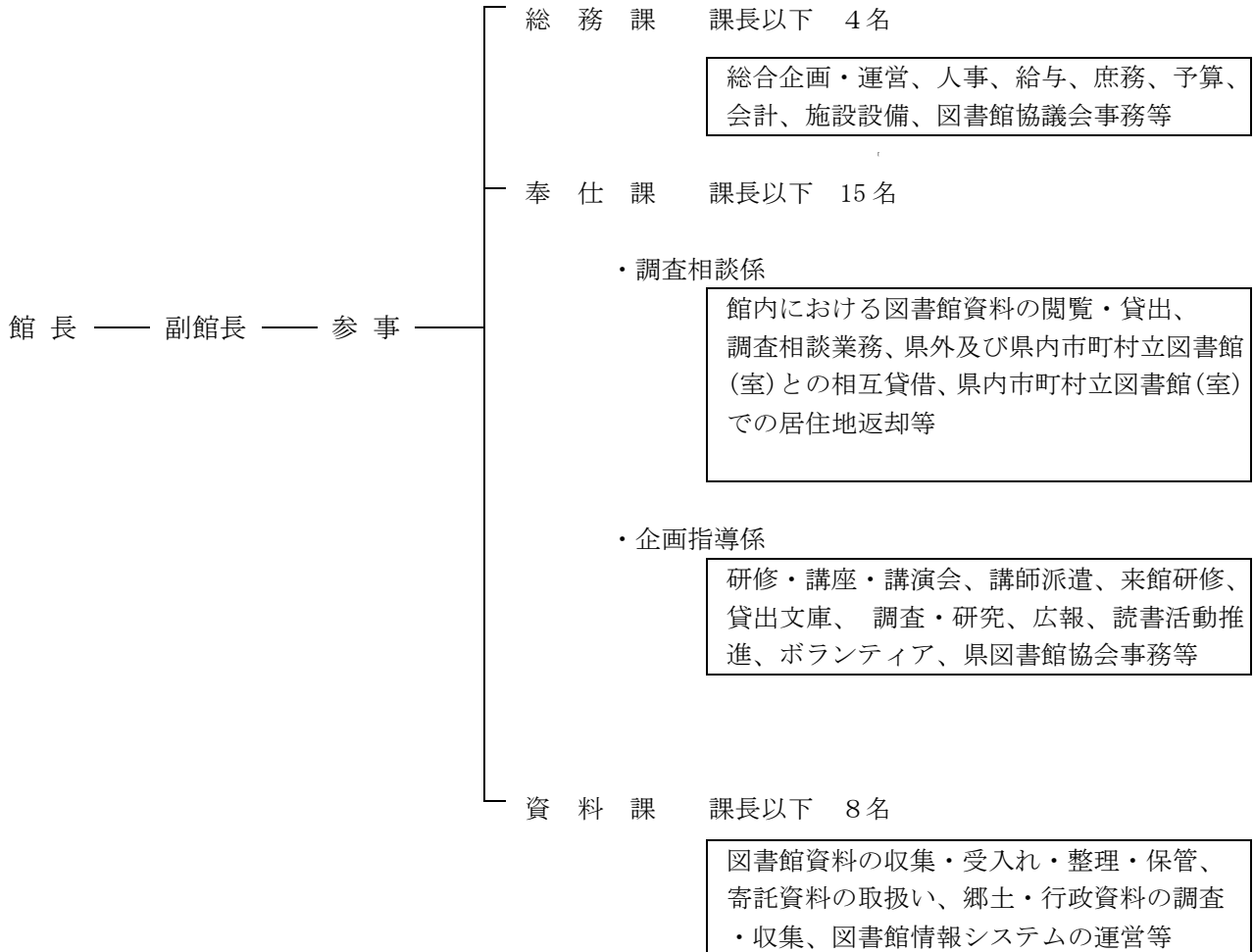
- 1 市町村立図書館等の図書館職員の資質や技能の向上を支援し、全県的な図書館サービスの充実を図ります。
- 2 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、図書館職員の接遇、電話対応、レファレンス対応能力などの資質・能力の向上に努めます。

＜重点取組事項＞

- 図書館職員の資質向上支援
- 読書活動推進人材の育成

Ⅲ 組 織

1 組織及び分掌事務



2 職 員 数

館 長 (非常勤)	副館長	参 事	課 長	係 長	専門員	指 導 主 事	主 査	主 事	合 計
1	1	1	3	4	4	6 (4)	6	4	30

(注)指導主事の()書きは、専門員との兼務者を再掲。

IV 業務の概況

1 開館時間・休館日

(1) 開館時間

火～土曜日	午前9時～午後9時(児童文化室は午後7時まで)	
日曜・休日 12月28日 1月4日	午前9時～午後5時	
12月29日 12月30日	一部 開館	午前9時～午後5時 学習室(3階)

(2) 休館日

月曜	祝日の場合は開館(翌日休館)
整理研修日	毎月25日(学習室のみ午前9時～午後5時開室) (ただし、その日が土曜日・日曜日の場合は開館)
特別整理期間	令和8年度は、2月中に実施
年末年始	12月29日～1月3日 (ただし、12月29・30日は学習室のみ午前9時～午後5時開室)

2 個人貸出

(1) 貸出

ア 貸出冊数・貸出期間

区分	貸出冊数	計	貸出期間
一般閲覧室	5冊以内	10冊以内	3週間以内
児童文化室	5冊以内		

※ 返却期限内であり、かつ、その本に予約が入っていない場合は、3週間の貸出期間延長が1回できます。

イ 予約

貸出中の本を予約することができます。(インターネット上のポータルサイト、館内OPACからも予約できます。)

ウ 居住地の市町村立図書館(室)を通じて、本を借りることができます。(鹿児島市を除く。)

(2) 返却

居住地の市町村立図書館(室)でも本を返すことができます。(鹿児島市については、合併前の旧5町(吉田・桜島・喜入・松元・郡山)の各公民館図書室のみ返却を受け付けています。)

3 市町村等への貸出(貸出文庫)

貸出希望のある市町村等(一部地域を除く)に、1年未満の期間で、まとまった冊数の貸出をしています。三島村、十島村、種子島、屋久島の市町村には託送で配本しています。

4 相互貸借と選書参考

(1) 図書館間相互貸借

利用者が求める資料で、当館では所蔵しておらず他の公共図書館等にあるものについては、所蔵館等から借用し、利用者の閲覧に供しています。一方、他の公共図書館等からの求めに応じ、当館からも貸出を行っています。(鹿児島市を除く。)

(2) 選書参考

利用者から未所蔵資料の情報提供があった場合、図書資料選択委員会において検討し、購入の可否を決定しています。

5 調査相談

日ごろの疑問や、もっと詳しく知りたいと思っていることなどに対して、図書館資料の情報を提供しています。電話や文書(ファックス・レファレンス受付フォーム)等でも相談することができます。

ただし、鹿児島県外からの質問は、鹿児島県に関するもののみ受け付けています。

6 資料の複写

本館の所蔵資料は、著作権法の範囲内で複写することができます。また、郷土新聞等のマイクロフィルム（一部デジタル化新聞あり。）、及びデータベースからの複写もできます（料金は、利用者負担）。

7 図書館情報システム

県民のニーズに迅速・的確に対応するため図書館情報システムを運用し、資料の貸出・返却等に係わる利用者サービスの向上と資料管理の効率化を図っています。

8 横断検索システム

県内 39 市町公共図書館、10 大学附属図書館等がこのシステムに参加しており、蔵書を一度に検索することができます。また、連携した相互貸借機能により、より簡単に相互貸借の申込みができます。

9 インターネット・データベースサービス

調査・研究などに使える専用パソコンを 8 台設置し、インターネットや「南日本新聞データベース」「官報情報検索サービス」「日経テレコン 21」「ルーラル電子図書館」「SMART 判例秘書」「朝日新聞クロスサーチ」「国立国会図書館デジタルコレクション」の 7 種類のオンライン商用データベース等を利用することができます。

10 児童文化室

- (1) 県内のモデル児童図書室として利用者サービス（貸出・調査相談・おはなしのじかん等）の充実を図り、児童奉仕活動を推進しています。
- (2) 幼児・児童・生徒等の読書活動を推進するため、「こどもの本ー児童図書モデルリストー」、親子読書研究誌「さざなみ」、「大人になるまでにこれだけは読んでおきたい『にじいろのほん』」等を作成し、資料提供等を行っています。

11 方言ライブラリー

方言の保存と利用のための整備を図る目的で、昭和 62 年 5 月 1 日に開設し、収録テープ、方言対訳集を所蔵しています。なお、収録テープについては、劣化を防ぐため CD にデータ化して保存しています。

12 特化コーナー

学習支援・課題解決型の図書館サービスに努めるため、「医療・福祉支援」、「子育て・教育支援」、「ビジネス支援」、「郷土・歴史支援」及び「読書バリアフリー」コーナーを設置しています。

13 学習室（電卓使用ルーム含む）

県民が自学自習をする場として提供しています。

14 研修講座等の開催

- (1) 図書館「総合」講座
公共図書館（室）等の関係職員の資質向上を図るため開催しています。（5 月・1 月）
- (2) 学校図書館講座
学校図書館関係職員の資質向上を図るため開催しています。
（幼稚園・小学校等対象、中学校・高等学校等対象 各 2 日間）
- (3) 読書活動推進人材スキルアップ研修会（読書活動推進人材スキルアップ事業）
家庭・地域・学校等における子供読書活動推進に関わる人材の意識向上とスキルアップを図るため、県内 2 地区で開催します。
- (4) 海音寺潮五郎記念文化講演会・文芸ゼミナール
海音寺潮五郎の文業を讃え、その功績を後代に伝えとともに本県文化振興のための学習機会を提供するため開催しています。
- (5) 親子読書研修会
親子読書の進め方や親子読書活動の在り方等について学ぶ機会を提供するため開催しています。
- (6) 県図書館大会
公共図書館と学校図書館の関係者が一堂に会し、県下の読書活動や図書館の利活用を推進するため開催しています。
- (7) 県立図書館ボランティア活動説明会及び県立図書館高校生ボランティア養成講座
県立図書館ボランティア活動説明会は、学習の成果を活用し、自分自身をより豊かに実現しようとする希望者を対象に開催しています。

県立図書館高校生ボランティア養成講座は、図書館業務への関心を高め、積極的にボランティア活動に取り組む人材を育成するため、県内高校生を対象に開催しています。

(8) おやこ一冊読書・宝本

平成 23 年度から「おやこ一冊読書（一冊の本を親と子が一緒に読み味わう読書の方法）」を推進しています。また、すべての子供が読書に親しむように、1 日 20 分程度の読書に取り組みましょうという「1 日 20 分読書」を通じて、絆を深め、感動を味わい、自分を見つめる大切な一冊である「宝本」を見つける取組を呼びかけています。

(9) 鹿児島の高校生が薦める本

中・高校生をはじめ、幅広い年齢層における読書意欲の向上に役立てるため、平成 22 年度から 4 年に 1 度、県内の高校生が薦める本のリストを作成しています。

(10) ビジネス支援事業（高校生ビジネスプラン作成講座）

県勢発展の基盤となる「鹿児島の『稼ぐ力』の向上」のために、従来行っている課題解決支援のうち、ビジネス支援を充実させるための取組を行っています。

高校生ビジネスプラン作成講座は、図書館資料と日本政策金融公庫の専門的なノウハウを生かし、ビジネスプランの作成の仕方について講義・演習を行っています。

15 職員の派遣、来館研修の受入れ

図書館活動、読書活動の充実・活性化を図るため、市町村等からの要請に基づき、県内の図書館（室）や学校等へ指導主事等を派遣しています。

また、図書館（室）関係職員、親子読書会や幼稚園・小学校等の団体の来館研修を受け入れています。

16 展示の実施、広報活動及び史料集刊行

(1) 図書館に対する県民の理解・関心を高めるため、図書館資料の展示を定期的に行っています。

(2) 当館の利用を促進するため、ホームページや SNS を活用し、図書館に関する各種情報を広く県民に提供しています。

(3) 当館の各種行事や情報等の周知を図るため、県立図書館広報紙「県図だより」を毎月発行しています。

(4) 史料の保存を図り、郷土研究に役立てるため、「鹿児島県史料集」を毎年刊行しています。

17 貴重資料等のデジタル化

当館が所蔵している歴史的貴重資料等のデジタル化を進め、図書館ホームページに掲載しています。

18 関係機関等との連携

(1) 県図書館協会が定めた「毎月 23 日は子どもといっしょに読書の日」は、子供が自ら本に親しみ、主体的に読書に取り組むよう啓発する運動であり、同協会とともにこの運動を推進しています。

(2) 公共図書館（室）・学校図書館等の活性化を図るため、資料及び情報の収集や提供に努めています。

(3) 読書活動グループ・史談会等、図書館を利用する団体への支援に努めています。

19 研修室の一般利用

県民の生涯学習を支援する中核施設として利用者の利便性を図るため、研修室を一般の利用に供しています。

対象施設	面積(㎡)	収容人数
大 研 修 室	342	約 200 人
第 1 研 修 室	124	約 60 人
第 2 研 修 室	62	約 20 人
第 3 研 修 室	227	約 90 人

Ⅴ 行 事 計 画

1 図書館「総合」講座

期 日	定 員	対 象
5/28 (木)	30 人	〔基本編〕 公共図書館(室)の関係職員
1/22 (金)	30 人	〔実践編〕 公共図書館(室)の関係職員

2 学校図書館講座

講 座 名	期 間	定 員	対 象
幼稚園・小学校	7/29 (水) 7/30 (木)	30 人	幼稚園、小学校及び特別支援学校の教諭及び司書(補)等
中学校・高等学校	8/6 (木) 8/7 (金)	30 人	中学校、高等学校及び特別支援学校の教諭及び司書(補)等



学校図書館「幼稚園・小学校」講座



海音寺潮五郎記念文化講演会

3 読書活動推進人材スキルアップ研修会

期 日	開催場所	定 員	対 象
8/27(木)	東串良町	150 人程度	公共図書館関係職員、幼稚園教諭、保育士、行政関係者、読書ボランティア、読書活動に関心のある方等
9/18(金)	さつま町	150 人程度	

4 親子読書研修会

期 日	開 催 場 所	定 員	対 象
7/5 (日)	カクイックス交流センター	300 人	各地区の親子読書会関係者、親子会関係者、PTA関係者、保育士、教職員、図書館(室)関係者、教育委員会関係者等

5 海音寺潮五郎記念文化講演会

期 日	開 催 場 所	定 員	対 象
10/24(土)	カクイックス交流センター	300 人	県民一般

6 海音寺潮五郎記念文芸ゼミナール

期 日	開 催 場 所	定 員	対 象
7月～1月までの年間8回 (7/12、8/2、8/30、9/27、10/25、11/1、12/6、1/24)	県立図書館	20 人	県内高校生

7 県図書館大会

期 日	開 催 場 所	定 員	対 象
11/18(水)	カクイックス交流センター	600 人	県・市町村教育委員会関係者、公共・学校図書館(室)関係者、大学・短期大学図書館関係者、PTA関係者、親子読書会等読書グループ関係者等

8 県立図書館ボランティア活動説明会等

活 動 名	期 日	対 象
県立図書館ボランティア活動説明会	5/17(日)、9/11(金)	図書館ボランティアに関心のある県民
県立図書館高校生ボランティア養成講座	7/19(日)	ボランティア活動に関心のある県内の高校生

9 集会活動

活 動 名	期 日	対 象
おはなしのじかん	毎週水曜日 15:30～16:00	県 民 一 般
土曜版おはなしのじかん	毎月第3土曜日 14:00～	県 民 一 般
おはなしのじかんスペシャル	4/26(日)	県 民 一 般
おはなしのじかん冬のスペシャル	12/13(日)	県 民 一 般

10 子ども読書の日関連行事

活 動 名	期 間	対 象
子ども読書の日フェスティバル	4/19(日)～5/10(日)	県 民 一 般

11 年間展示計画

回	企 画 展 示 (玄関ホール他)		貴重資料紹介 (玄関ホール)	
	期 間	テ ー マ	期 間	テ ー マ
1	4/16(木)～5/6(水)	「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」ポスター原画コンクール入賞作品展	7/17(金)～9/1(火)	第1回貴重資料紹介展 「昭和100年のものがたり ～県立図書館・昭和コレクション～」
2	10/15(木)～11/3(火)	「宝本エピソード」展	1/15(金)～2/3(水)	第2回貴重資料紹介展 「テーマ未定」



ミニ展示コーナー (一般閲覧室)



おはなしのじかんスペシャル



桜の下のおはなしのじかん①



桜の下のおはなしのじかん②

VI 図 書 館 資 料

1 図書資料

県民の生涯学習を支援する中核施設として、幅広い資料を収集・整理・保存するとともに、情報拠点として質の高い資料・情報を効率的に提供しています。

2 郷土資料

郷土研究の一助としての活用を図るため、鹿児島県全域及び現在は鹿児島県以外でも薩摩藩政下にあった地域を対象として、資料の収集に努めています。

3 逐次刊行物

利用者に新鮮な情報を提供するため、新聞・雑誌をはじめ、年鑑・白書等の逐次刊行物の収集を行っています。

また、平成 27 年度から雑誌スポンサー制度を導入し、現在 20 社(団体)から 34 誌の提供を受けています。(令和 8 年 4 月 1 日現在)

4 マイクロフィルム化・デジタル化資料

新聞等を手軽に利用できるようにマイクロフィルム化、デジタル化して利用に供しています。

令和 8 年 4 月 1 日現在

新 聞 名	マ イ ク ロ フ ィ ル ム 化
鹿 児 島 新 聞	明治 15. 2 ～昭和 17. 2
鹿 児 島 日 報	昭和 17. 2 ～昭和 21. 12
南 日 本 新 聞	昭和 22. 1 ～平成 28. 12
鹿 児 島 実 業 新 聞	明治 33. 2 ～大正 2. 11
鹿 児 島 朝 日 新 聞	大正 2. 11 ～昭和 17. 2
夕 刊 鹿 児 島	昭和 24. 12 ～昭和 27. 6
南 日 本 新 聞 (夕 刊)	昭和 27. 7 ～平成 21. 2
鹿 児 島 毎 日 新 聞	昭和 34. 4 ～昭和 36. 12
鹿 児 島 新 報	昭和 37. 1 ～平成 16. 5
大 阪 朝 日 新 聞	明治 12. 1 ～昭和 14. 12
朝 日 新 聞 (西 部)	昭和 15. 9 ～昭和 38. 2
朝 日 新 聞 (鹿 児 島 版)	昭和 45. 6 ～平成 28. 12
毎 日 新 聞 (鹿 児 島 版)	昭和 47. 1 ～平成 28. 12
読 売 新 聞 (鹿 児 島 版)	昭和 52. 1 ～平成 28. 12
西 日 本 新 聞 (鹿 児 島 版)	昭和 47. 1 ～平成 28. 12
南 海 日 日 新 聞	昭和 44. 11 ～平成 28. 12
薩 南 新 聞	昭和 24. 2 ～昭和 24. 12
ウィークリーカゴシマ	昭和 23. 8 ～昭和 25. 1
鹿 児 島 税 経 新 聞	昭和 26. 4 ～昭和 28. 3
鹿 児 島 毎 夕 新 聞	昭和 4. 10 ～昭和 6. 3
甕 島 毎 日 新 聞	明治 24. 11 ～明治 30. 4

※次の新聞は、デジタル化しています。

南日本新聞系列	……………明治 17. 1 ～令和 7. 12
朝日新聞 (鹿児島版) ・ 毎日新聞 (鹿児島版)	
読売新聞 (鹿児島版)	……………平成 29. 1 ～令和 5. 12
南海日日新聞	……………平成 29. 1 ～令和 4. 12
西日本新聞 (鹿児島版)	……………平成 29. 1 ～平成 30. 3
鹿児島新報	……………一部

5 新 聞

県民のニーズに対応するため、下記の一般紙(地方紙・全国紙)、業界紙、外国紙等を収集しています。

○朝日新聞	奄美新聞	沖縄タイムス	熊本日日新聞
産経新聞	ジャパントイムズ	スポーツニッポン	南海日日新聞
日刊工業新聞	日本教育新聞	○日本経済新聞	日本農業新聞
○毎日新聞	南日本新聞	宮崎日日新聞	○読売新聞
週刊読書人	朝日小学生新聞	朝日中高生新聞	毎日小学生新聞

※ ○は縮刷版があります。

Ⅶ 統 計

1 蔵書の構成(令和7年度末現在)

(1) 所在別

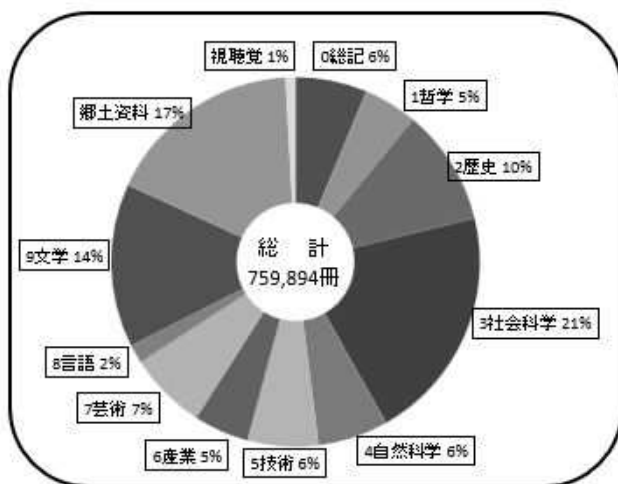
(単位:冊)

所 管	一般閲覧室用		児童文化室用		地方奉仕用	合 計
所 在	開 架	書 庫	開 架	書 庫	書 庫	
冊 数	102,042	657,852	52,032	98,027	40,814	950,767

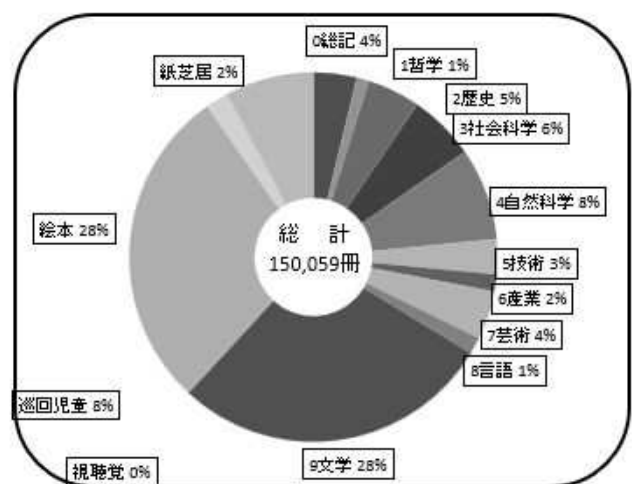
(2) 類 別

(単位:冊)

類／冊 数	一般閲覧室用	児童文化室用	地 方 奉 仕 用	合 計
0 総 記	47,924	6,193	225	54,342
1 哲 学	35,506	1,704	452	37,662
2 歴 史	77,662	7,591	642	85,895
3 社 会 科 学	156,704	9,557	1,406	167,667
4 自 然 科 学	46,865	13,096	1,156	61,117
5 技 術	47,186	5,005	1,596	53,787
6 産 業	37,040	2,427	293	39,760
7 芸 術	51,518	6,862	725	59,105
8 言 語	12,620	2,407	62	15,089
9 文 学	108,975	45,891	6,106	160,972
郷 土 資 料	131,216	—	—	131,216
視 聴 覚 資 料	6,678	—	—	6,678
絵 本	—	46,143	13,400	59,543
紙 芝 居	—	3,183	2,032	5,215
児 童	—	—	12,719	12,719
計	759,894	150,059	40,814	950,767



(一般閲覧室用図書)



(児童文化室用図書)

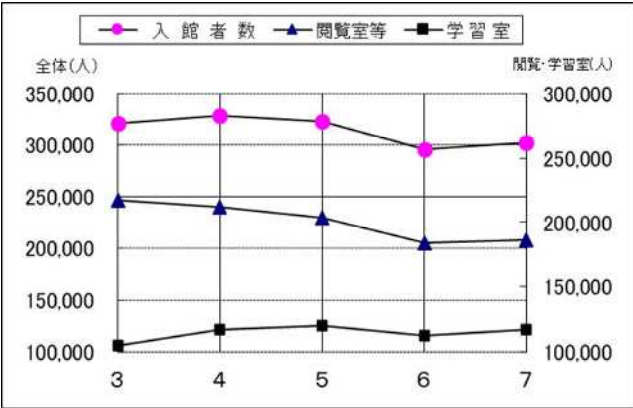
(3) 受入冊数(令和7年度分)

(単位:冊)

一般閲覧室用			児童文化室用			地方奉仕用			合 計
購 入	寄贈他	計	購 入	寄贈他	計	購 入	寄贈他	計	
7,149	2,093	9,242	2,281	202	2,483	1,761	1	1,762	13,487

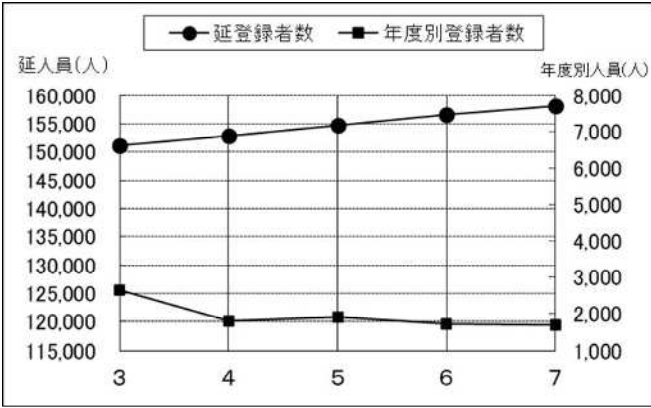
2 利用状況等の推移

入館者数



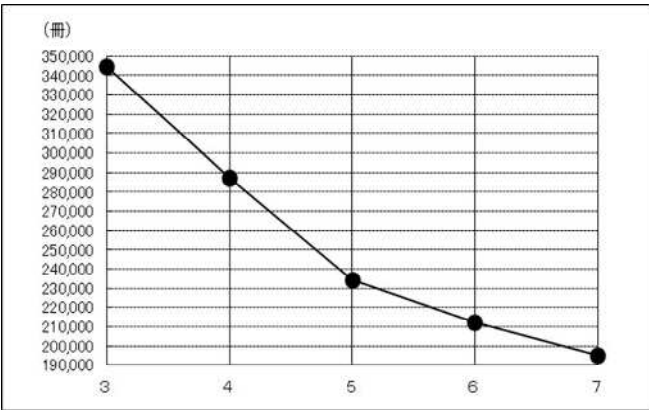
年度	3	4	5	6	7
入館者数	321,546	329,250	323,436	296,544	302,836
内 閲覧室等	216,923	212,310	203,819	184,482	186,168
訳 学習室	104,623	116,940	119,617	112,062	116,668

登録者数



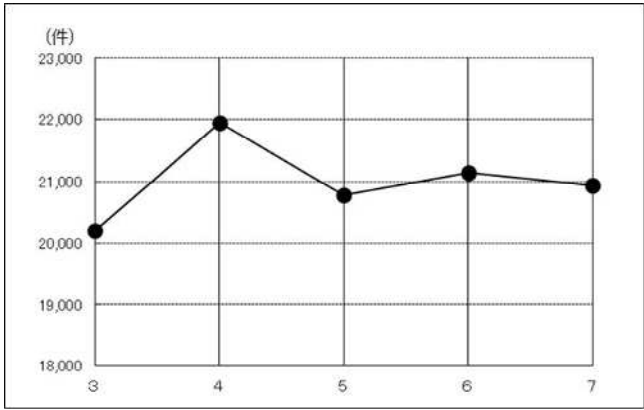
年度	3	4	5	6	7
延登録者数	151,105	152,909	154,820	156,537	158,225
年度別登録者数	2,639	1,804	1,911	1,717	1,688

貸出冊数



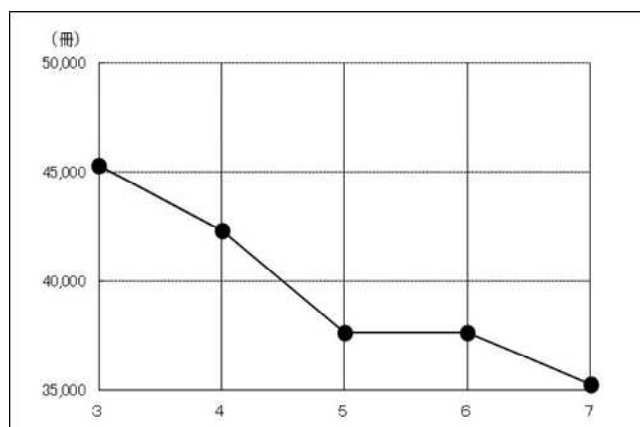
年度	3	4	5	6	7
貸出冊数	344,775	287,449	234,452	212,519	195,208

調査相談回答件数



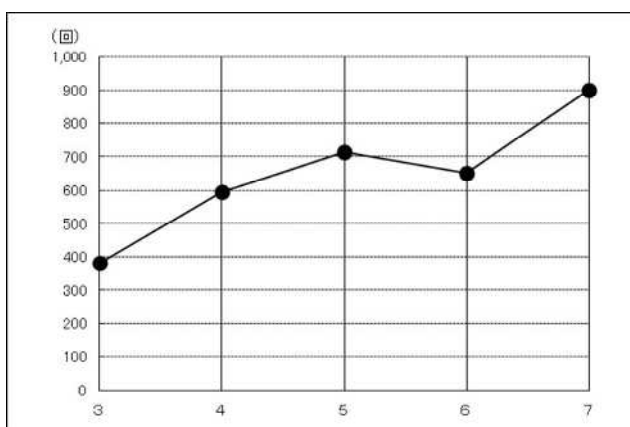
年度	3	4	5	6	7
回答件数	20,204	21,945	20,782	21,147	20,937

書庫資料閲覧冊数



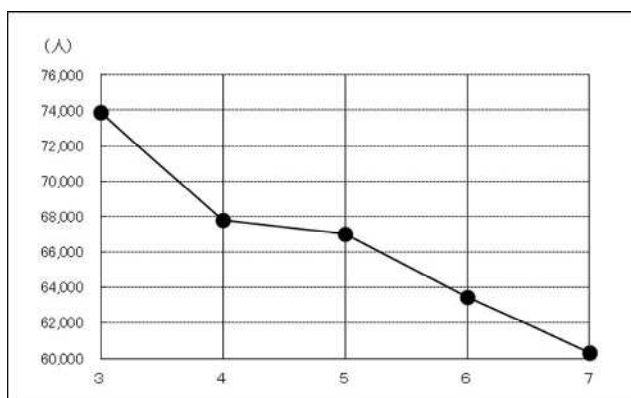
年度	3	4	5	6	7
項目					
閲覧冊数	45,292	42,350	37,625	37,609	35,252

デジタル化新聞閲覧回数



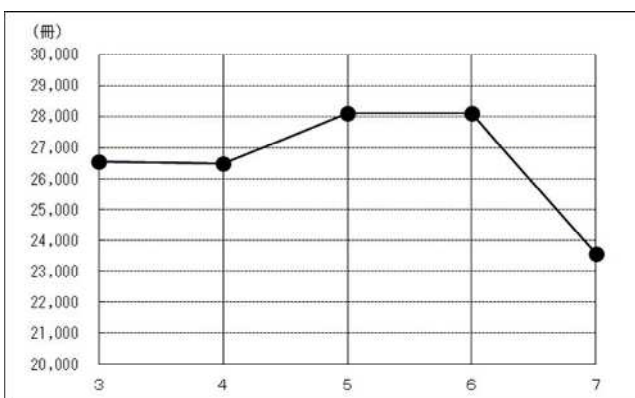
年度	3	4	5	6	7
項目					
閲覧回数	381	597	714	652	899

館外貸出者数



年度	3	4	5	6	7
項目					
貸出者数	73,868	67,821	67,016	63,458	60,336

貸出文庫配本冊数



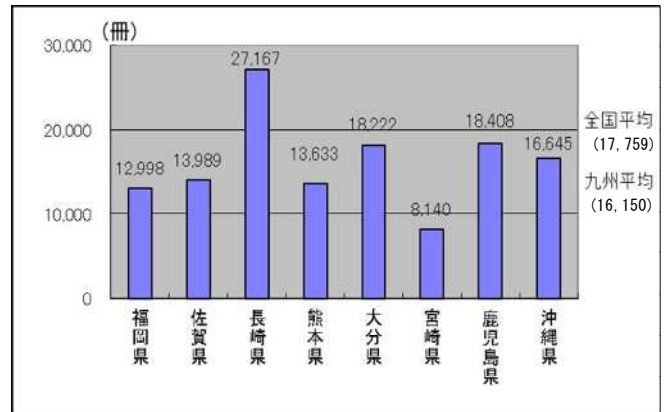
年度	3	4	5	6	7
項目					
配本冊数	26,578	26,501	28,111	28,121	23,575

3 九州各県立図書館の比較(令和6年度末)

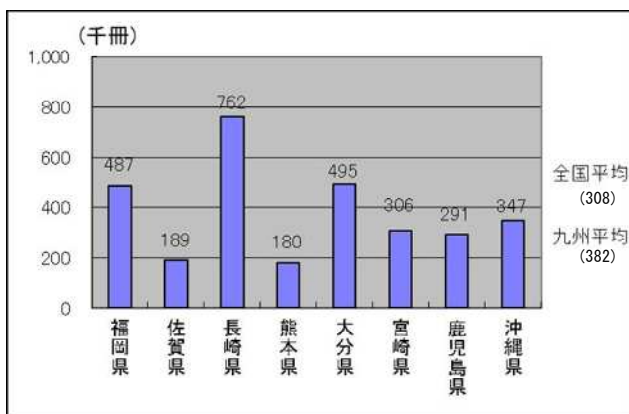
(1) 蔵書冊数



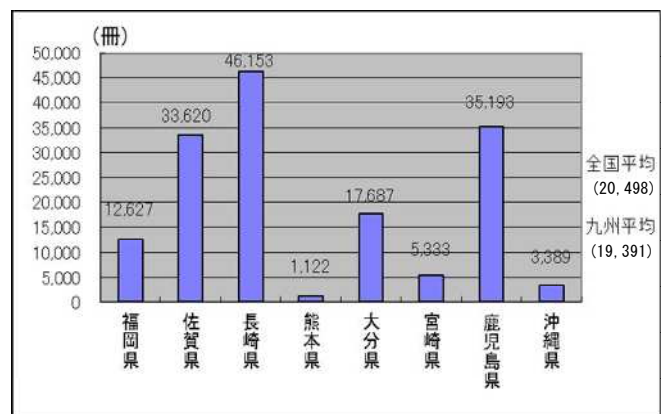
(2) 受入冊数



(3) 個人への貸出冊数



(4) 図書館等への貸出冊数



※ 「日本の図書館 2025」より
鹿児島県は、県立図書館と奄美図書館を合算した値です。

Ⅷ 予 算

(単位：千円)

事業名	令和8年度※	令和7年度※	備考
本館管理運営事業	266,971	177,337	○ 管理運営費 ○ 図書館情報システム運営費 ○ 館内奉仕事務 等
図書館運営指導事業	794	794	○ 学校図書館講座 ○ 県図書館大会
本館図書資料収集整備	29,723	29,723	○ 図書資料収集整備 ○ 電子書籍資料収集整備
読書活動推進人材 スキルアップ事業	279	279	○ 新規事業（R7～9年度）
海音寺潮五郎 記念事業	6,119	6,119	○ 海音寺潮五郎文庫の充実 ○ 文化講演会の実施 ○ 文芸ゼミナールの実施 ○ 貴重資料のデジタル化
施設設備等整備事業	17,284	72,339	○ 施設・設備の改修
棕鳩十生誕120周年 記念事業	0	2,125	○ R7単年度事業
計	321,170	288,716	

※ 当初予算ベースで計上

Ⅸ 施 設

1 概 要

構 造：鉄筋コンクリート造り3階建(一部4階)
 規 模：敷地面積 15,942.44 m²
 建物面積 11,294.53 m²
 工 期：昭和53年1月31日～昭和54年9月30日
 工 費：工事費 1,991,808 千円(設計費を含む。)
 備品費 263,500 千円

2 主な施設の概要

閲覧室 (1階 377.6 m², 2階 821.2 m²)

1階閲覧室には、新聞・雑誌、郷土関係出版物及び新聞縮刷版などを開架方式で備えており、海音寺潮五郎コーナーを常設し、利用者の閲覧に供しています。新着図書のほか「子育て・教育支援」、「医療・福祉支援」、「ビジネス支援」、「読書バリアフリー」に関する図書等も閲覧できます。

また、利用者により魅力的な情報発信ができるよう、月ごとにテーマを設定して資料を展示するミニ展示コーナー等を設置しています。

2階閲覧室には、郷土資料コーナー、郷土・歴史支援コーナー、参考図書コーナーを特設するとともに、過去の新聞等を閲覧できるようにマイクロフィルムリーダー、デジタル化新聞用パソコンを設置しています。

また、インターネット・データベースコーナーやパソコン(利用者所有)が使用できるコーナーを常設しています。

学習室 (3階 619.5 m²)

電卓使用ルーム (3階 32.3 m²)

県民が自学自習をする場として利用できます。

児童文化室 (1階 376.6 m²)

乳幼児から中学生までの子供向け及び研究用図書約 50,000 冊が開架式で置かれ、棕鳩十コーナー・海音寺文庫を常設し、閲覧や貸出に供しています。この他、おはなしのへやを兼ねた集会室や研究室・参考室があります。隣接する児童庭園は緑陰読書の場として利用されています。

書庫 A (1層～6層 1,979.5 m²)

積層6フロアからなり、虫害防止のための真空滅菌装置、ハロンガスによる特殊消火設備など資料保存のための機能を持ち、書籍類を保管しています。

書庫 B (1階 502.9 m²)

積層2フロアからなり、主に市町村の図書館(室)などへ貸し出す図書等を保管しています。

(旧文庫編成室 H27 年度改修)

書庫 C (1階 102.9 m²)

児童書を保管しています。(旧貸出用書庫 H27 年度改修)

方言ライブラリー室 (2階 4.8 m²)

県民の鹿児島方言に関する調査研究に資するため、収録テープ、CD、方言対訳集を備えています。

大研修室 (1階 342 m²)

第1研修室 (2階 124 m²)

第2研修室 (2階 62 m²)

第3研修室 (3階 227 m²)

当館主催の研修会等の実施の際に使用する部屋です。

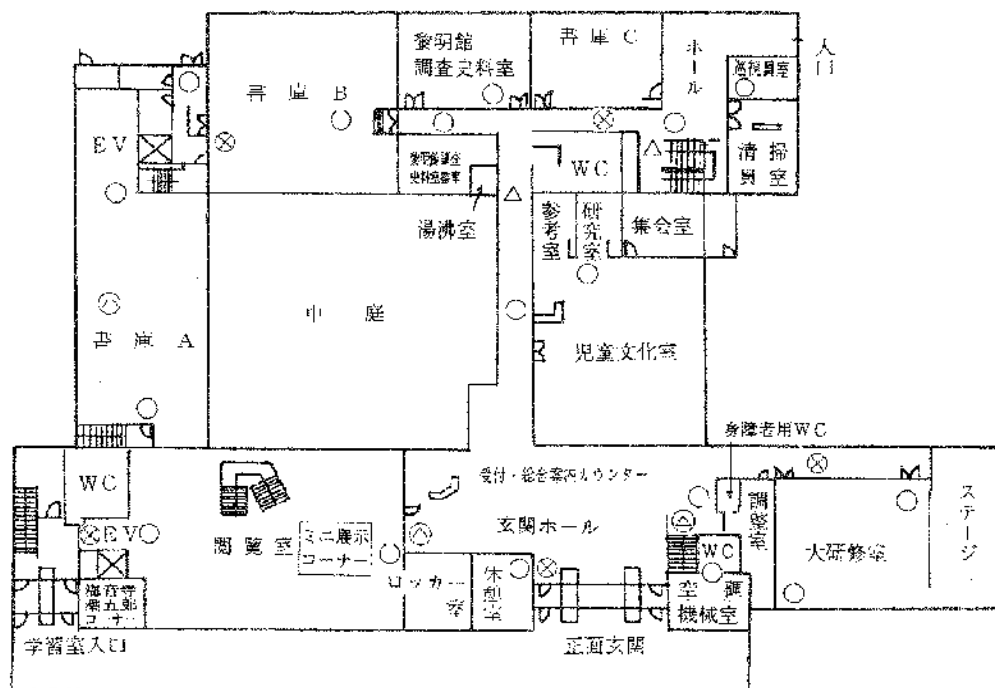
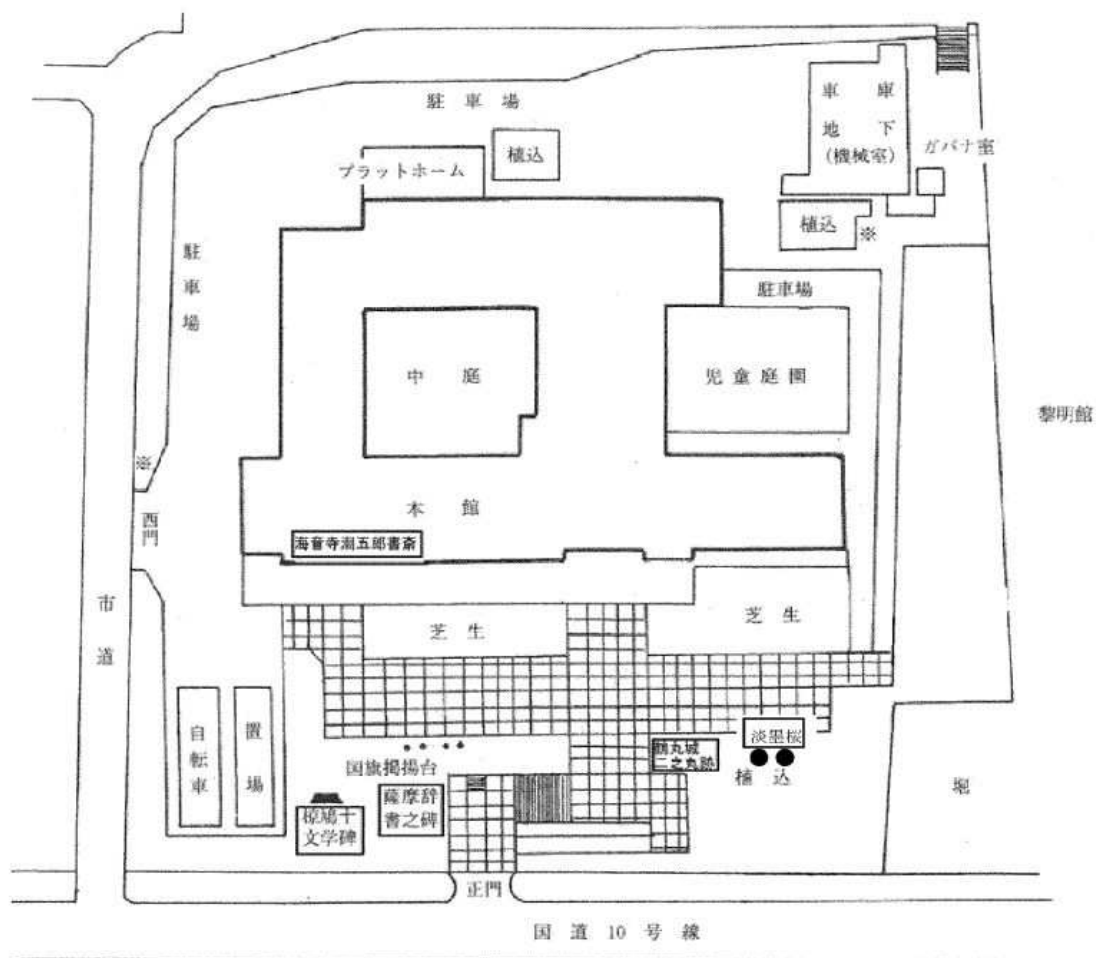
一般の利用にも供しています。

身障者のための施設

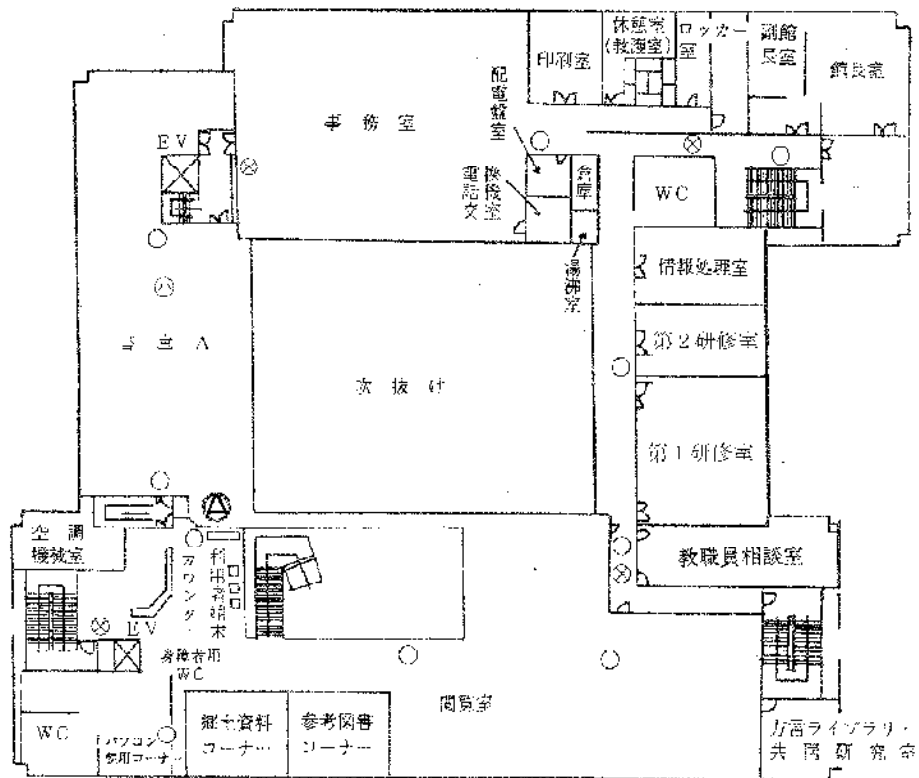
専用のエレベーター・トイレや車いす用の机を設置するなど、図書館利用の際、不自由のないように施設設備の整備に努めています。

また、高齢者・視力の弱い方のために拡大読書器や大活字本を備えています。

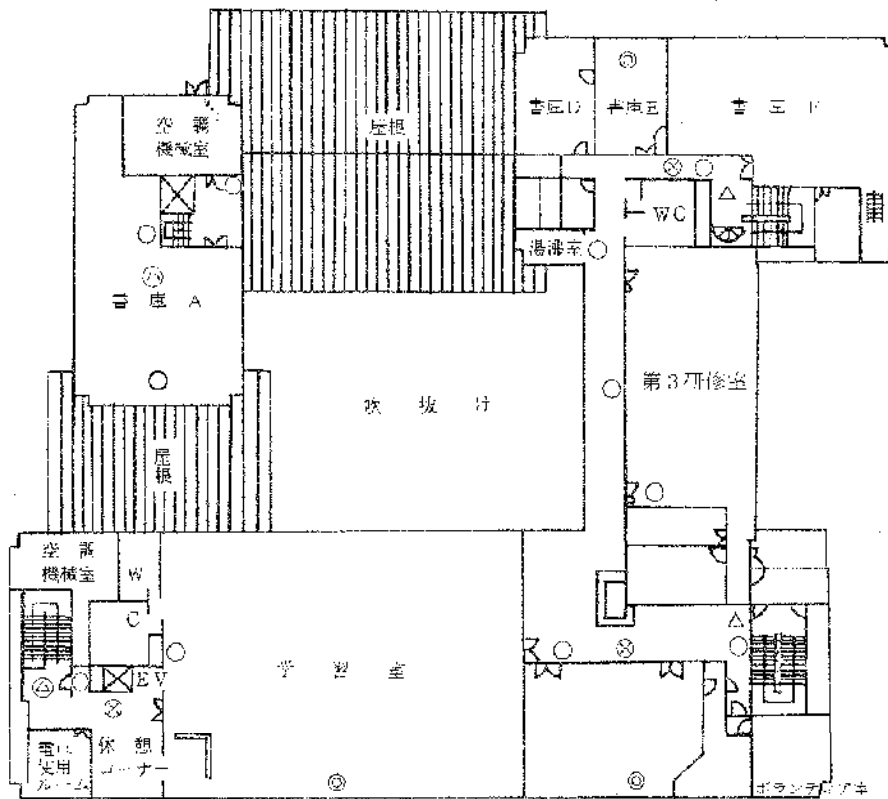
3 配置図及び平面図



本館 1 階 平面図



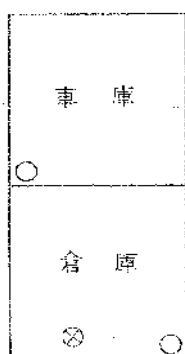
本館 2 階 平面図



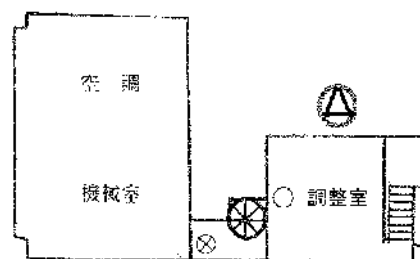
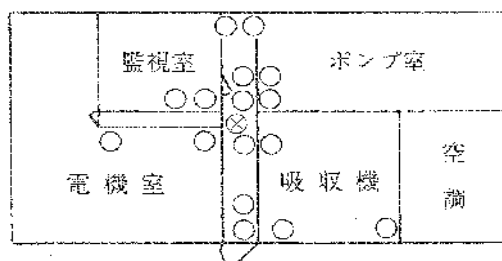
本館 3 階 平面図

本館 4 階 平面図

車庫 1 階



車庫地下（機械室）



- △ 防火扉
- ⊗ 防火シャッター
- 消火器
- ⊗ 消火栓
- ⊙ スローダン
- ⊖ ハロゲン化物消火設備
- ※ 消防隊 採水口

4 その他（記念碑等）



(1) 鶴丸城二之丸跡

県立図書館は、鶴丸城の二之丸跡内に建っています。二之丸跡には、藩主の世子や隠居の居宅などがありました。

明治 10 年 9 月 24 日早朝、西南戦争最終の日に官軍の攻撃によって二之丸は焼失しました。

その後、第七高等学校造士館や鹿大医学部グラウンドとして使用されていましたが、昭和 55 年に県立図書館が建設され、現在に至っています。



(2) 薩摩辞書の碑(昭和 56 年 3 月 鹿児島市建立)

海外留学を熱望していた薩摩の学生 高橋新吉、前田献吉、前田正名らは、留学費用を得るため、明治 2 年に和訳英辞書二千部を出版しました。

堀達之助らの英和辞書を改訂し、上海で印刷したのですが、英学熱の高まる当時、「薩摩辞書」と称して非常に珍重され、以後復刻六回、わが国英学界に大きく貢献したことを、後世に長く引き継ぐために建立されたものです。



(3) 棕鳩十文学碑(昭和 58 年 10 月 棕鳩十文学碑建立委員会建立)

鹿児島の文化・文学・教育の振興に尽くされた棕鳩十先生の功績をたたえた文学碑です。昭和 63 年 6 月に棕鳩十文学碑建立委員会から当館へ寄贈されました。

棕鳩十先生は、永年にわたり鹿児島県立図書館長として在職され、「親子 20 分読書運動」を全国に広げるなど、広く図書館活動の推進に貢献されました。



(4) 淡墨桜

岐阜県本巣郡根尾村（現本巣市）から 8 本が寄贈され、うち 2 本が、平成 2 年 3 月 20 日に当館へ植樹されました。



(5) 海音寺潮五郎書斎

海音寺潮五郎先生が、那須塩原市（栃木県）の別荘において執筆活動に使用されていたものを再現したものです。机、座椅子、刀掛など当時の執筆の様子がうかがえます。

平成 23 年 12 月に(財)海音寺潮五郎記念館から当館へ寄贈されました。

参 考 資 料

1 歴 代 館 長

	豊 田 勝 蔵	明治 45 年 4 月	～	大正元年 10 月	(事務取扱)
第 1 代	片 山 信太郎	大正元年 10 月	～	大正 10 年 1 月	
第 2 代	奥 田 啓 市	大正 10 年 2 月	～	昭和 19 年 4 月	
第 3 代	加治屋 哲	昭和 19 年 5 月	～	昭和 22 年 7 月	
	栗 川 久 雄	昭和 22 年 7 月	～	昭和 22 年 11 月	(事務取扱)
	久保田 彦 穂	昭和 22 年 11 月	～	昭和 23 年 3 月	(館長心得)
第 4 代	久保田 彦 穂	昭和 23 年 4 月	～	昭和 41 年 3 月	
第 5 代	新 納 教 義	昭和 41 年 4 月	～	昭和 48 年 10 月	
	益 山 重 二	昭和 48 年 10 月	～	昭和 49 年 3 月	(社会教育課長兼務)
第 6 代	芳 即 正	昭和 49 年 4 月	～	昭和 51 年 3 月	
第 7 代	小 迫 義 雄	昭和 51 年 4 月	～	昭和 53 年 3 月	
第 8 代	宇 都 哲	昭和 53 年 4 月	～	昭和 56 年 3 月	
第 9 代	東 正 昭	昭和 56 年 3 月	～	昭和 58 年 7 月	
第 10 代	山 崎 昭 雄	昭和 58 年 8 月	～	昭和 61 年 3 月	
第 11 代	須佐美 新	昭和 61 年 4 月	～	平成 2 年 3 月	
第 12 代	林 洋 右	平成 2 年 4 月	～	平成 3 年 3 月	
第 13 代	児 島 正 憲	平成 3 年 4 月	～	平成 5 年 3 月	
第 14 代	野 口 信太郎	平成 5 年 4 月	～	平成 7 年 3 月	
第 15 代	田 中 弘 明	平成 7 年 4 月	～	平成 9 年 3 月	
第 16 代	伊集院 久 信	平成 9 年 4 月	～	平成 10 年 3 月	
第 17 代	徳 永 健 生	平成 10 年 4 月	～	平成 11 年 3 月	
第 18 代	前 城 美 章	平成 11 年 4 月	～	平成 14 年 3 月	
第 19 代	小 倉 順	平成 14 年 4 月	～	平成 16 年 3 月	
第 20 代	田 中 昌 平	平成 16 年 4 月	～	平成 18 年 6 月	
	西 田 睦 夫	平成 18 年 6 月	～	平成 18 年 7 月	(職務代行)
第 21 代	上 今 常 雄	平成 18 年 8 月	～	平成 20 年 3 月	
第 22 代	津 田 修 造	平成 20 年 4 月	～	平成 21 年 3 月	
第 23 代	脇 田 稔	平成 21 年 4 月	～	平成 24 年 3 月	
第 24 代	原 口 泉	平成 24 年 4 月	～	令和 3 年 3 月	
第 25 代	古 川 仲 二	令和 3 年 7 月	～	令和 5 年 3 月	
第 26 代	東 條 広 光	令和 5 年 4 月	～	令和 8 年 3 月	
第 27 代	豊 島 真 臣	令和 8 年 7 月	～		

2 鹿児島県立図書館協議会

(1) 鹿児島県立図書館協議会設置条例 (昭和 25 年 12 月 27 日条例第 68 号)

最終改正 平成 24 年 3 月 27 日条例第 32 号

第 1 条 鹿児島県立図書館に、図書館協議会を置く。

第 2 条 図書館協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は 10 名とする。

2 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命する。

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。但し欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 4 条 委員は任期中といえども特別の事情があるときは免ずることができる。

第 5 条 委員に対して支給する報酬及び費用弁償の額並びに支給方法は、別に定めるところによる。

第 6 条 この条例に定めるもののほか、図書館協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成 24 年 3 月 27 日条例第 32 号)

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(2) 鹿児島県立図書館協議会運営規則 (昭和 26 年 9 月 19 日教育委員会規則第 11 号)

最終改正 昭和 51 年 3 月 12 日教育委員会規則第 6 号

第 1 条 鹿児島県立図書館協議会(以下「協議会」という。)の運営についてはこの規則の定めるところによる。

第 2 条 協議会に議長及び副議長各 1 名を置く。

2 議長及び副議長は委員のうちから互選しなければならない。

3 議長は、会議を主宰する。副議長は議長を助け議長に事故があるとき、又は議長が欠けたときは、その職務を行う。

4 議長及び副議長の任期は、1 年とする。但し、再選をさまたげない。

第 3 条 会議は年 4 回以内とし、必要に応じて招集する。

第 4 条 会議は図書館長が招集し、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 会議開催の日時場所及び議題は、図書館長があらかじめ各委員に通知しなければならない。

3 会議の議事は出席委員の過半数で決する。

第 5 条 この規則に定めるものの外、必要な事項は、協議会で定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和 51 年 3 月 12 日教育委員会規則第 6 号)

この規則は、公布の日から施行する。

(3) 鹿児島県立図書館協議会委員(令和8年5月15日現在)

区 分	氏 名	役 職 等
学校教育関係者	大 田 高 行	鹿児島市立向陽小学校長（鹿児島県学校図書館協議会会長）
社会教育関係者	豊 蔵 錦 子	天城町立図書館長（鹿児島県図書館協会奄美支部支部長）
家庭教育関係者	田 淵 千 春	鹿児島県 PTA 連合会副会長
	尾場瀬ちなみ	串木野小学校読み聞かせグループ「花さき山」代表
学 識 経 験 者	山 本 智 子	鹿児島大学附属図書館長(鹿児島大学水産学部教授)
	岡 田 祐 介	(株)南日本放送報道制作局報道部担当部長
	下 豊 留 佳 奈	オフィスいろは代表
	宮 内 基 希	(株)宮内洋行 代表取締役社長
公 募 委 員	須 部 貴 之	
	廣 石 悠 人	

3 鹿児島県史料集刊行委員会委員(令和8年4月1日現在)

(委員の掲載順は50音順)

氏 名	分 野	職 名
安 藤 保	近 世	九州大学名誉教授
尾 口 義 男	近 世	元始良市歴史民俗資料館館長
金 井 静 香	中 世	鹿児島大学法文学部教授
亀 井 森	近 世	鹿児島大学教育学部准教授
栗 林 文 夫	中 世	鹿児島県歴史・美術センター黎明館調査史料室室長
小 水 流 一 樹	中・近世	霧島市商工観光部観光 PR 課主任主事
崎 山 健 文	近 世	鹿児島県歴史・美術センター黎明館主任学芸専門員
佐 藤 宏 之	近 世	鹿児島大学教育学部教授
中 野 翠	中 世	元指宿高等学校長
丹 羽 謙 治	近 世	鹿児島大学法文学部教授
林 匡	近 世	錦江湾高等学校教諭（元額娃高等学校長）
原 口 泉	近 世	志學館大学人間関係学部兼法学部教授
福 元 啓 介	中・近世	尚古集成館学芸員
藤 崎 公 晴	近 世	伊佐農林高等学校教諭

4 研修講座等の開講変遷(昭和 50 年度以降)

学校図書館講座

- ・司書、実務、運営、読書講座(昭和 50 年度)
- ・実技(初・中級)、運営、読書指導講座(昭和 51 年度)
- ・実務(A・B)、運営(A・B)、読書指導講座(昭和 52～58 年度)
- ・実務(A・B)、運営、読書指導(A・B)講座(昭和 59～60 年度)
- ・実務、運営、読書指導(A・B)講座(昭和 61 年度)
- ・実務、運営、小学校読書指導、中・高等学校読書指導講座(昭和 62～平成 14 年度)
- ・実務・運営、読書指導講座(平成 15 年度)
- ・「幼稚園・小学校」、「中学校・高等学校」総合講座(平成 16 年度～平成 21 年度)
- ・〃〃講座(平成 22 年度～)

公共図書館講座

- ・新任職員、実務、製本、運営、児童奉仕講座(50 年度)
- ・新任職員、実技(初・中級)、製本、読書指導講座(昭和 51 年度)
- ・新任職員、実務、運営(A・B)、読書指導講座(昭和 52 年度)
- ・実務、運営(A・B)、読書指導講座(昭和 53 年度)
- ・実務(A・B)、運営(A・B)、読書指導講座(昭和 54 年度)
- ・実務、運営、読書指導講座(昭和 55～平成 4 年度)
- ・実務、運営、読書普及講座(平成 5～10 年度)
- ・実務、運営講座(平成 11 年～15 年度)
- ・図書館「総合」講座(平成 16 年度～)

図書館教養講座

- ・図書館教養講座(昭和 55～平成 3 年度)
- ・生涯学習県民大学専修講座(平成 4～5 年度)
- ・生涯学習県民大学図書館教養講座(平成 6～17 年度)
- ・しろやま教養講座(平成 19 年度～平成 22 年度)
- ・学習サークル(平成 23 年度～)

親子読書研修会

- ・親子読書指導者研修会、幼児読書指導講座(昭和 52 年度)
- ・親子読書巡回セミナー(昭和 53～平成 7 年度)
- ・親子読書研修会(昭和 56 年度～)

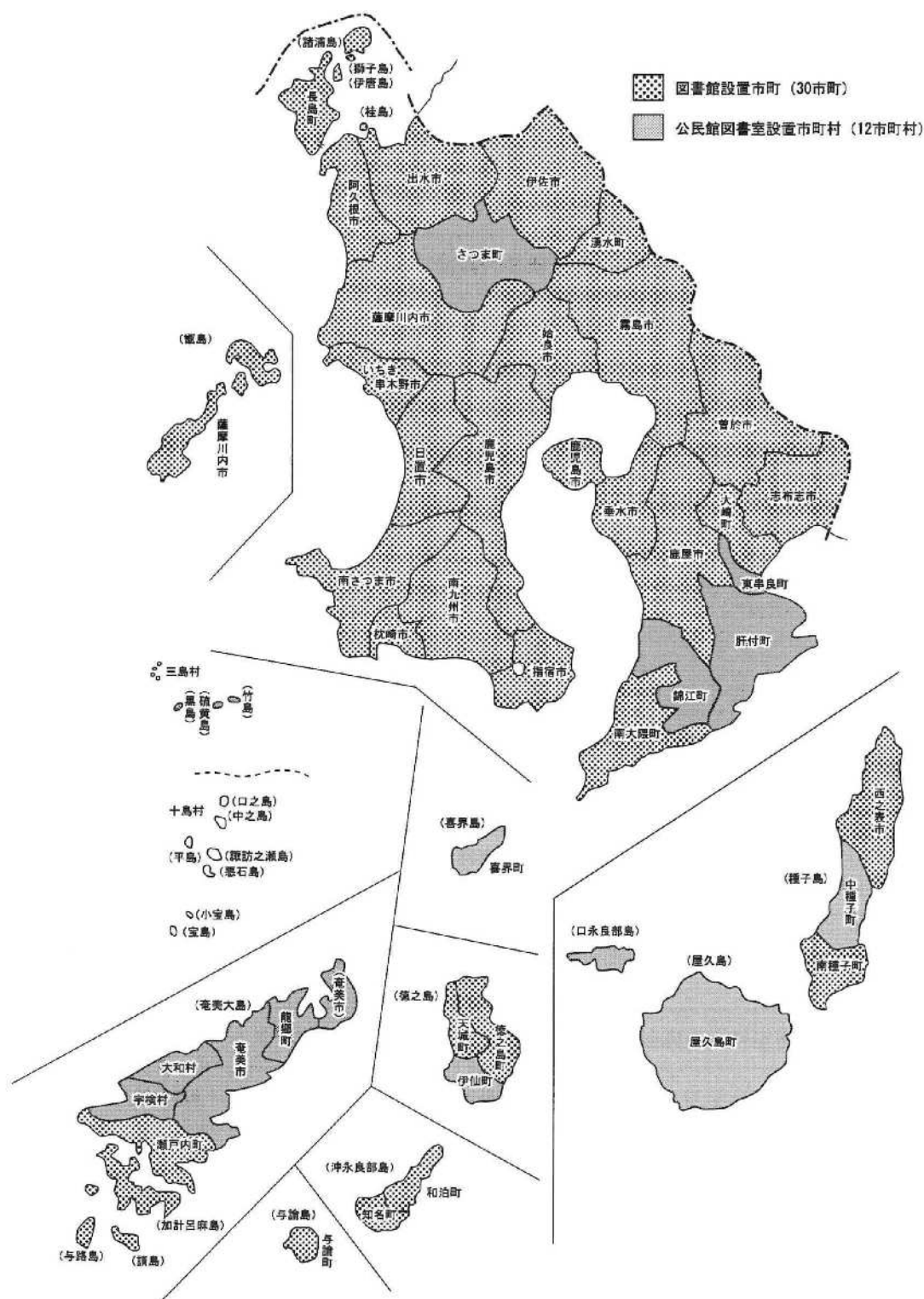
その他の講座

- ・児童文学講座(昭和 55～57 年度)
- ・親と子の工作教室(昭和 55～平成 14 年度)
- ・方言講座「ふるさとの言葉を聞くつどい」(昭和 62～平成 3 年度)
- ・おはなしたねまき教室(平成 15 年度～21 年度)
- ・広げよう深めよう「読み聞かせ」指導者研修会(平成 16 年度～18 年度)
- ・「自ら本に手を伸ばす子ども」育成研修会(平成 19 年度～21 年度)
- ・読書と感動を広げる研修会(読書活動推進員養成講座)(平成 22 年度～24 年度)
- ・地域の読書活動グループ活性化研修会(平成 25 年度～27 年度)
- ・海音寺潮五郎記念文化講演会(平成 25 年度～)
- ・海音寺潮五郎記念文芸ゼミナール(平成 26 年度～)
- ・子ども読書活動推進スキルアップ研修会(平成 28 年度～30 年度)
- ・読書活動推進スキルアップ研修会(令和元年度～令和 3 年度)
- ・読書の魅力を伝える活動推進研修会(令和 4 年度～令和 6 年度)
- ・読書活動推進人材スキルアップ研修会(令和 7 年度～)

5 公共図書館の設置状況

令和8年4月1日現在

設置市町村数 42 市町村(19 市・20 町・3 村)

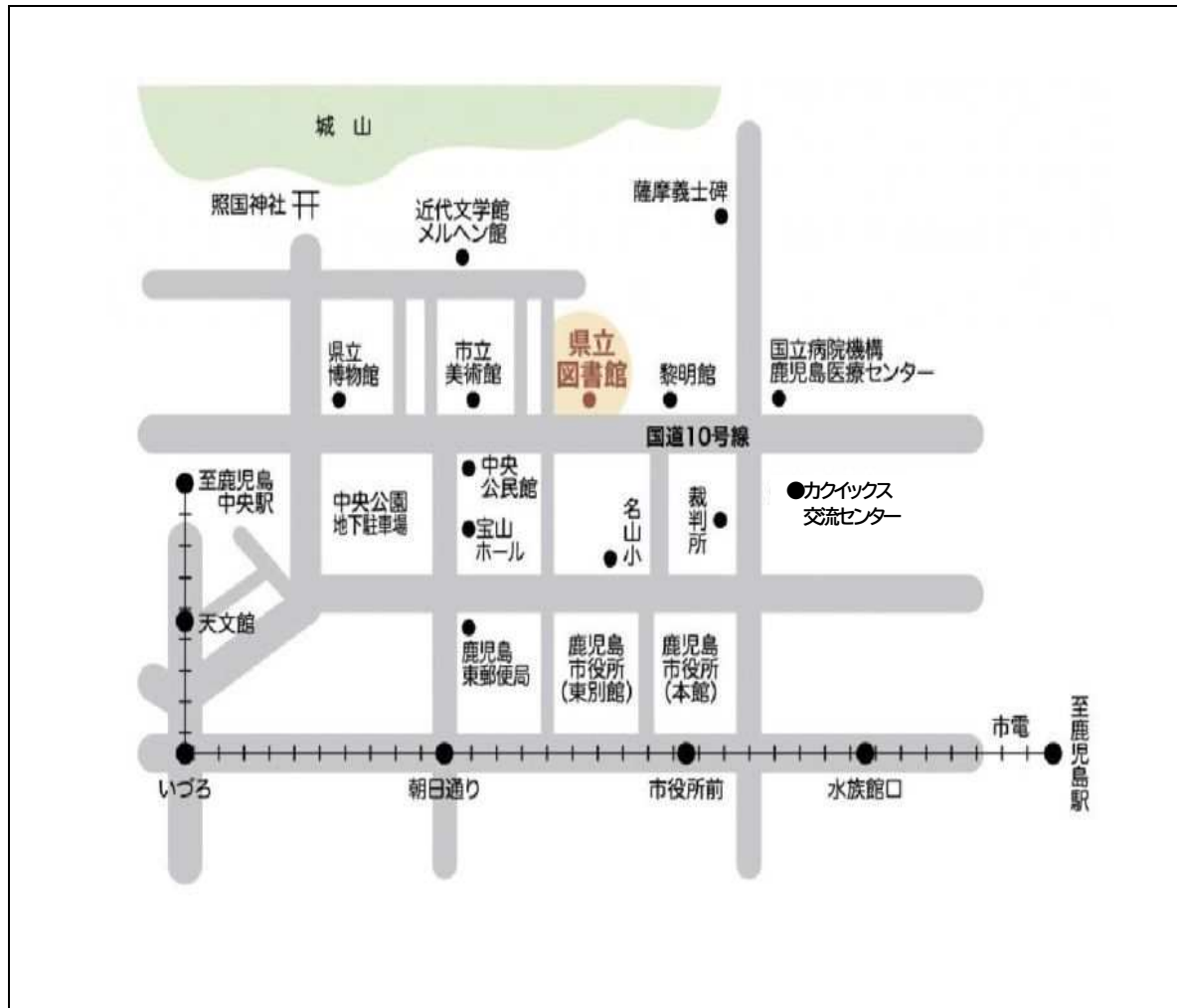


6 横断検索システム参加市町(39 市町)

令和8年4月1日現在

鹿児島市、日置市、いちき串木野市、枕崎市、指宿市、南さつま市、南九州市、阿久根市、出水市、薩摩川内市、霧島市、伊佐市、姶良市、鹿屋市、垂水市、曾於市、志布志市、西之表市、奄美市、さつま町、長島町、湧水町、大崎町、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町、中種子町、南種子町、屋久島町、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町

図 書 館 案 内 図



令和 8 年度 要 覧

令和 8 年 7 月 発行

鹿 児 島 県 立 図 書 館

〒892-0853 鹿児島市城山町 7 番 1 号
TEL (099) 224-9511
FAX (099) 224-5824